

①ユニバーサル (共生)

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと (障壁や困難の解消 (時間・季節を問わず)、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など)

②ウェルネス (健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること (身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

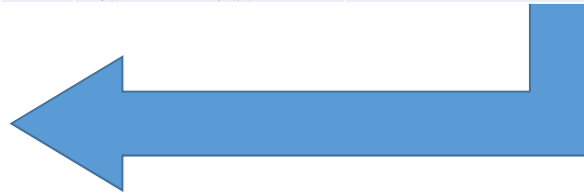
③スマート (快適・先端)

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること (先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など)

●気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動きが加速しているため、「LEED for Cities」での「プラチナ」認証という高い評価を受けた環境面の強みを生かし、脱炭素社会の実現に向け先駆的に取り組んでいること③が重要。

●また、うるおいや安らぎを与える森林、公園などを保全・創出していること②や、防災・市民交流の場として活用していくこと①が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然環境、5mの降雪と共存する世界に類を見ない大都市</li> <li>環境面での高い評価</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル技術の急激な進歩 (AI、IoT)</li> <li>国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き</li> <li>気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動き (脱炭素)</li> <li>世界的なESG投資意欲の高まり</li> </ul>	
S×O	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然環境、5mの降雪と共存する世界に類を見ない大都市</li> <li>環境面での高い評価</li> <li>都市機能の集積</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>価値観やライフスタイルの多様化 (ダイバーシティ)</li> <li>気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動き (脱炭素)</li> </ul>	



■基本目標 16 世界に冠たる環境都市 ⇒ **世界に冠たるサステナブルシティ**

※脱炭素社会の実現や地域循環共生圏の形成など、循環型社会を構築していく観点を強化 現目標16、17を一本化

■基本目標 17 豊かなみどり・生態系と共生するまち ⇒ **身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち**

※うるおいや安らぎを与える森林、公園等の保全・創出や、みどりが有する防災、市民交流の場等の価値や機能を有効活用する観点を強化 現目標15、23を一本化

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 基本目標16は、『世界に冠たる環境都市』ではなく、『世界に冠たるサステナブルシティ』とした方が良い。サステナブルの方が、環境だけでなく経済・社会の要素も入る。Environmental CityよりもSustainable cityの方が世界に対してもアピールできる (山中)
- 基本目標17について、より市民目線に立って、「身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち」を提案。市民が身近なみどりに親しむことで札幌の自然の豊かさを享受するとともに、自然環境との共生についての知識・理解を深める機会を創出することが求められる (椎野)

【環境】基本目標 16 世界に冠たるサステナブルシティ

■目指す姿 **案**

- 1 脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネ化に加え、北海道・さっぽろ圏の豊富な再生可能エネルギーの導入拡大や、新たなクリーンエネルギーである水素エネルギーの活用、ゼロエミッション自動車の普及が進んでいます。  
※「省エネ」や「クリーンエネルギー」の観点を記載。
- 2 エネルギー利用に関する世界トップレベルの取組が展開され、高い環境性能と強靱性を兼ね備えた都心が確立されています。  
※「都心エネルギーネットワーク」の観点を記載。
- 3 ごみの減量・再利用・リサイクルなどが積極的に行われるとともに、近隣地域と資源を補完し支え合う地域循環共生圏の形成を含めた循環型社会が構築されています。 ※「循環型社会」の観点を記載。
- 4 誰もが経済・社会とのつながりを理解しながら環境保全や気候変動対策などに取り組んでおり、ライフスタイルの変革や技術革新が進んでいます。 ※「SDGsを意識した行動」の観点を記載。

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 2030年の温室効果ガス排出量削減目標達成及び2050年の脱炭素社会の実現に向けて、徹底した省エネルギーの推進や、新たなクリーンエネルギーである水素も含めた再生可能エネルギーの導入拡大、次世代自動車の普及拡大などの取組を加速させる必要
- 都市機能が集積した都心は多くのエネルギーを消費していることから、都心が先導的に建物の省エネルギー化や、エネルギーの面的利用、再生可能エネルギー利用を推進する必要があるため、世界的なESG投資意欲の高まりや、今後ピークを迎える民間建物の建替えを契機として、エネルギーネットワークの拡充などによるエネルギー利用の最適化等を進めていくことが重要
- 新ごみルール等によりごみの量は大きく減少し、清掃工場1か所の廃止と埋立地が延命化された。今後も引き続き、循環型社会の形成に向けた取組を推進していくとともに、各地域の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成し、地域特性に応じ資源を補完し支え合うという「地域循環共生圏」の視点も取り入れる必要
- 持続可能な社会の実現に向けては、多様化・高度化する様々な課題に対して、SDGsの視点を踏まえ、環境・経済・社会のつながりを理解した行動や企業活動などを行う必要

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 持続可能なまちは、札幌だけで実現できるものではない。賢い消費者・Wise Userが住むまち。木材も道産木材を選ぶなど、「賢い消費者」の考えが重要（山中）
- カーボンニュートラルへの取り組みは、新たなビジネスの創造のきっかけにもつながると考える。脱炭素社会への取組については、ビジョンの中では環境に記載されているが、国内外の状況に鑑みもう少しはっきりとした表現で強調してはどうか。（中田）

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ZEH・ZEBの選択・供給（市・企）【新規】</li> <li>・省エネ・再エネ・畜エネ機器の導入及び再エネ電力の選択（市・企）※再エネ【レベ】</li> <li>・公共交通の積極的な利用とゼロエミッション自動車の導入（市・企）</li> <li>※ゼロエミッション自動車【レベ】</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ZEH・ZEBや省エネ機器などの普及促進</li> <li>※ZEH・ZEB【レベ】</li> <li>・再生可能エネルギー導入の推進</li> <li>・ゼロエミッション自動車の普及促進や水素ステーション等の整備【新規】</li> </ul> etc
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーネットワークの整備(企)【新規】</li> <li>・建物の更新等を契機とした自立分散電源の設置や地域熱供給への接続(企)【新規】</li> <li>・ICTを活用したエネルギーマネジメントシステム導入(企)【新規】</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーネットワーク整備の促進【新規】</li> <li>・建物の更新等の機会を捉えた自立分散電源の設置や地域熱供給への接続の取組誘導【新規】</li> <li>・ICTを活用したエネルギーマネジメントシステム導入の支援【新規】</li> </ul> etc
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2R（リデュース、リユース）を中心とした3R行動の実践（市・企）</li> <li>・道産木材などの地域資源の積極的な選択・利用（市・企）【新規】</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2R（リデュース、リユース）を中心とした3R行動の促進</li> <li>・広域圏での廃棄物処理やエネルギー連携【新規】</li> </ul> etc
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsを意識した環境学習（市）【新規】</li> <li>・環境に配慮した賢い消費・選択や、積極的なエコ活動の実施（市・企）【新規】</li> <li>・ゼロカーボン等を契機とした新たなビジネス創出（企）【新規】</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsを意識した環境学習の推進</li> <li>※SDGs【レベ】</li> <li>・環境へ配慮したライフスタイルへの転換に向けた普及啓発</li> <li>・環境に関する新技術の開発支援【新規】etc</li> </ul>

【環境】基本目標 17 身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち

■目指す姿 **案**

- 1 森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちのなかで、人々が健康的で幸福感の高い生活を送っています。  
※「みどりの創出・保全」の観点を記載。
- 2 森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合いや人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源涵養、二酸化炭素吸収など多面的な機能を発揮し、都市の魅力や強靭性を高めています。  
※「グリーンインフラ」「みどりの利活用」の観点を記載。
- 3 生物多様性が広く理解され、地域本来の生態系が維持されたなかで自然と人とが共生しています。  
※「生物多様性の保全」の観点を記載。

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 都市公園の数は充実しているものの、都心の緑被率は低く、人口増加が顕著な中央区などでは身近な公園が不足している地域もあることから、都心におけるみどりづくりと公園の必要性が高い地域での公園づくりが必要。  
また、市内の森林では、間伐が遅れた人工林が多数あることから、「森林環境譲与税」などを活用しながら、森林を守り・育てていく必要
- 札幌の強みである「豊かな自然環境」を最大限生かしながら、気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動きに対応するため、自然・みどりが持つ機能（防災・減災、地域振興など）を積極的に活用するグリーンインフラの導入を進める必要。また、都市公園法の改正により、Park-PFIが新たに設けられたことから、これらの制度も有効に活用しながら、官民連携による魅力あるみどりの創出・活用を進める必要
- 生物多様性の理解度は横ばいで推移していることから、生物多様性の保全に関する理解の更なる促進や、地域の自然の特徴に合わせた適切な自然環境の保全を進めることで、自然との共生を目指すことが必要

■第2回審議会でいただいたご意見

- みどりには、存在機能と利用機能という二つがある。存在機能は、防災機能やヒートアイランド現象の緩和機能などである。一方、利用機能は、子どもの身近な遊び場という機能もあれば、市民が週末にレクリエーションを楽しめる場というような、利用することによって健康増進を図るという機能
- 未来を担う子どもたちに早いうちから自然に親しんでもらう。自然に親しむような活動の機会創出を見直していくべき
- みどりは健康寿命延伸に寄与する。規模の大きい都市公園がある地域に住む人は、そうでない地域に比べて、運動習慣が1.2倍高い。自分が外で活動できる場があるというのは非常に重要。身近な公園などをもう少し活動したくなるような空間に整えることや、各区のウォーキングマップなど既にある資源を広く周知し、外出機会を創出することも必要
- みどりの自然を保全していくことは防災・減災につながる。防災・減災の観点から、みどりを見直すことも大切（椎野）

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1, 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保全・創出・整備に関するまちづくり活動への主体的な参加（市・企）</li> <li>・みどりのオープンスペース創出（市・企）</li> <li>・遊びや健康増進の場として身近なみどりに触れ合う（市）【新規】</li> <li>・地域コミュニティを育む場としての活用（市・企）</li> <li>・民間主導・官民連携による利活用（企）【新規】</li> <li>・森林に入り、触れ、感じることで、森林の持つ機能の大切さを知る（市）【新規】etc</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公有地のみどりの保全・創出及び私有林の整備</li> <li>・森林環境譲与税の活用による森林整備、担い手の育成・確保【新規】</li> <li>・みどりに関する情報発信【新規】</li> <li>・イベント開催などによる各主体の連携促進</li> <li>・みどりの多様な機能（防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供など）を活用するグリーンインフラの取組の推進【新規】</li> <li>・Park-PFIなどによる公園の魅力向上【新規】etc</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性に関する理解（市・企）</li> <li>・多様な生物が生息・生育できる自然環境の保全・創出につながる取組への参画（市・企）【新規】</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性に関する保全活動の促進【新規】</li> <li>・生物多様性に関する教育や普及啓発の推進</li> <li>・自然と触れ合う機会や学習する機会の積極的な提供【新規】etc</li> </ul>